

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101885
法人名	医療法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サン琴海
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町7 1 3 番地 (電話) 095-840-3070
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成 21年 2月 18日

【情報提供票より】 (平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	18 人	常勤 18人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋 造り		
	3階建ての 1 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3000~3100 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 451 円		

(4) 利用者の概要 (2月 18日現在)

利用者人数	26 名	男性 5 名	21 名
要介護 1	4 名	要介護 2	7 名
要介護 3	9 名	要介護 4	5 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 啓正会 清水病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは日当たりがよく明るくリビングや居室から見える景色は、海や森林といった自然が見える快適な環境である。居室も広くトイレも設置され個人のプライバシーが守られるなどの配慮がされている。法人内には医療機関があり、利用者の状況の変化にはすぐ対応できる体制があり、看護師を介して情報交換や事例報告などが出来ている。ホーム長の利用者に対する見守りの徹底が職員にも浸透しており、常に声かけや言葉にも注意を払っている。職員は利用者を人生の先輩として尊厳の意を払うと共に家族の一員として、笑顔の絶えない生活を送ってもらいたいとの支援をしている。日々の生活の中では利用者本位に考え、声かけとして「～するね・・・」とか「～しようか・・・」とか意向を汲み取る努力をしながら支援がなされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目である自己評価作成への全職員参加、運営推進会議の定期的開催の改善がされている。自己評価は職員が意義を理解し全員で取り組んでいる。又運営推進会議は4回実施し参加メンバーも整い、報告内容も検討されている。地域からの提案も反映させるなどし会議が地域との繋がりの場となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者自らが意義を理解しており前職員に伝えている。用紙はコピーして職員で話し合いながら行い、計画作成担当者がまとめて作成している。職員は自己評価を行うことで、日々の見直しや振り返りの良い機会と捉えている。ただし、外部評価においては、職員全員での取り組みとなっていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年4回開催されており、参加メンバーは家族代表、自治会長、介護支援専門員、市の職員、看護師、施設長、管理者で構成されている。議題内容は事業所の運営理念、利用者の様子、ホームの状況、行事、避難訓練の状況などである。又自己評価や外部評価の結果報告を行い意見の反映に努めている。地域とホームとの関わりの中で今後どのように対応したら良いかの意見交換をするなどして取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族などからの意見や苦情が出やすい雰囲気作りに心がけており、玄関に意見箱を設置したり、家族の面会時に要望を尋ねるなどしている。意見を出しやすくする為の改善は検討されている。また前回の改善項目であった外部窓口や第三者委員会の設置は、重要事項説明書に苦情窓口として、第三者機関を明示し家族へ説明がされており、改善が確認できた。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や買い物の際は近隣の方との挨拶や会話をしたり、地元でとれた野菜の差し入れなどもある。自治会にも加入しており節分の豆まき参加や、ホームの芋掘りには地域の子供たちが参加している。地域の安全確保のために「こども110番の家」として、地域からの依頼で子供の通学時の見守りをしている。地域の消防団との交流もあり訓練時には協力してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「楽しく・優しく・元気よく」を掲げており、利用者と職員が共に一日笑顔で楽しく元気よく暮らすための支援を行っている。ホーム設立時から地域の方とのネットワーク作りを行っており、運営推進会議を活かしながら理念に対する意識付けを図ると共に、理念の実践に向けての取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	主任が職員へ理念である、やさしさ、楽しさ、元気よくを日々声かけしたり、各フロアの目につきやすい所に掲示し、職員への意識向上に繋がっている。又利用者への意識と共に職員自らが気がける努力がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物の際は近隣の方との挨拶や会話をしたり、地元でとれた野菜の差し入れなどもある。自治会にも加入しており節分の豆まき参加や、ホームの芋掘りには地域の子供たちが参加している。地域の安全確保のために「こども110番の家」として、地域からの依頼で子供の通学時の見守りをしている。地域の消防団との交流もあり訓練時には協力してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては管理者が意義を理解しており、職員に説明し用紙を渡し、各ユニットで話し合い、計画作成担当者が作成している。職員は自己評価を行うことで、日々の見直しや振りかえりの良い機会として取り組んでいる。ただし、外部評価においては、職員全員での取り組みとなっていない。	○	外部評価結果について再度取り組む意義や活用方法を確認し、必要に応じて改善シートを作成し活用しながらより良いサービスへ繋げていくことが望まれる。

グループホーム モン・サン琴海

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の改善項目である運営推進会議の開催がなされている。昨年4回開催されており、参加メンバーは家族代表、介護支援専門員、市の職員、看護師、自治会会長、施設長ホーム長で構成されている。議題は運営理念、ホームの活動報告、行事予定、利用者の状況、自己評価、外部評価報告である。又地域とホームとの今後の関わりについての意見交換がされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併以前の付き合いである市の職員とは、情報交換をしたり、利用者の依頼があれば協力するなど、繋がりをもっている。又生活保護の方があり、市の担当者と連絡を取りながら連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の行事の際は「ホーム便り」を作成し家族へ郵送している。利用者の近況報告としては、管理者が2週間に1回家族へ電話をしている。金銭管理は法人内にて一括管理がされており、毎月請求書と共に領収書を郵送している。日用品などの小銭は立替えをし、報告して後日精算している。職員異動はほとんどないので、家族報告には至っていない。	○	家族への報告としては便りや面会時、電話での連絡が行われているが、話のみでは後日ズレや聞き漏れが生じることがあるため、個人記録や書類におけるの確認をし、家族からの同意を得ることが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などからの意見や苦情が出やすい雰囲気作り心がけており、玄関に意見箱を設置したり、家族の面会時に要望を尋ねるなどしている。意見を出しやすくする為の改善は検討されている。また前回の改善項目であった外部窓口や第三者委員会の設置は、重要事項説明書に苦情窓口として、第三者機関を明示し家族へ説明がされており、改善が確認できた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は現在はない。退職者に関しては利用者がダメージを受けないように、話しかけや寄り添うなどして支援している。管理者からの定期的な連絡や近況報告、又職員間での申し送りや細かい情報の共有で、新たな職員が替わっても利用者への暮らしの支援がスムーズに快適に過ごせる配慮をしている。離職がないため家族への報告は現在の所ないが、あれば報告するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画はないが研修の案内を掲示し、職員の希望があれば参加できる。法人内にて毎月勉強会を設けており、毎月交代で管理者が講師となり研修を継続している。栄養士や理学療法士などの参加もあり学ぶことをしている。研修後の報告会は設けてないが、コピーしたり申し送りにて内容を記入するなどして、職員が見ることが出来るようにしている。グループホーム連絡協議会からの研修案内がある時は参加している。ただし、研修報告は資料コピーの閲覧のみとなっている。	○	閲覧だけでは、受講できなかった職員との研修内容共有には不十分である。研修内容が日々の支援に役立つものであれば、受講できなかった職員にも情報を提供し共有して、日々のサービスの質の平準化に役立てることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市のグループホーム連絡協議会に加入しており、その中で繋がりを活用している。事例発表などの交流やバザーやボウリングなどのレクリエーションを兼ねた、職員間での交流をしている。交流する中で得た情報は持ち帰り職員で検討されている。近隣の同グループ内の管理者や利用者が芋掘りやみかん狩りを行うなどし交流に繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前は介護相談員とケアマネジャーが訪問するなどし、まずは入居相談受け付け書を作成し職員で共有している。利用者や家族から生活歴などを聞いたり、職員がホーム内での情報収集をするなどしている。入所前の見学もあり、入所後は馴染むまでは家族と電話での連絡をしたり、職員が傍で話を聞くなどして寄り添う支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は話した数だけ利用者との信頼関係が築けるということで、あいさつや言葉かけを大事にしている。洗いや食事の下ごしらえ、掃除など出来る事から手伝ってもらっている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬の意を持っており、言葉遣いには配慮している。昔の風習など利用者からの学びも多く、又「ありがとう」の言葉をかけられる関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の介護に心がけており、「～しないで」などの禁止用語を使わない配慮がされている。日々の利用者との会話や表情、行動において本人の意向や希望などを汲み取るようにしている。表情や言葉での表現が困難な場合は、家族に聞いたり、職員間で伝えたり、個人記録などで把握し、思いを汲み取る努力がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に利用者や家族から得た生活歴やホーム内での職員からの情報を基に話し合い、計画作成担当者が作成している。作成にあたっては家族の要望も取り入れ、作成後に家族に説明して同意を得ている。又控えは家族にコピーして渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は3ヶ月に1回、通常は6ヶ月に1回見直しを行っている。体調に変化があればその都度必要に応じて見直しを行っている。見直しにあたっては家族や医療機関の医師とも相談し、指示を仰ぎながら意見を取り入れ反映させている。見直し後は家族に説明し同意を得ている。又利用者が入院している場合は、退院後に職員が利用者や家族、医師とも話し合い計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物やドライブ、通院介助、外泊、又身内の方の葬儀参列においては職員が連れて行くなど、利用者や家族の要望にできる限りの支援がなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人に24時間体制の医療機関があるため、緊急時には連携して即対応できる。ほとんどが法人の医療機関からの入所であるが、かかりつけ医に関しては利用者や家族の了解を得て、ほとんどが法人の医療機関になっている。眼科や歯科医院に関しては、かかりつけ医を利用してもらうなどして、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合の対応に係る指針を記載し、入所時に家族へ説明し同意を得ている。出来る限りはホームでの生活を支援する意向であるが、経口摂取が出来なくなった時など状態に応じて看護師や法人内の医療機関と話し合う体制がとられている。重度化に対する方針は全職員で共有化されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の入所時に個人情報に関することについては家族に同意を得ている。又記録などの公表や便りなどに掲載する写真においては、事前に家族に確認するようにしている。個人記録は利用者や訪問者の目に触れない場所に保管している。全職員が個人情報保護法を理解し、退職後の守秘義務においても誓約書をとっており徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりに合わせた過ごし方が出来るように支援している。利用者の生活歴や日々の会話の中から把握したことから「～しませんか・・・？」とか「～しましょうか・・・？」と強制することなく、何気ない声かけをしながら、希望に沿って支援できるよう配慮している。		

グループホーム モン・サン琴海

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材はホーム全体で共通している。各ユニットで調理されているが、利用者の嗜好調査より好みの物を取り入れるなどの配慮がされている。きざみや流動食などの利用者には、食材がわかるよう「今日は～だよ」と声かけして美味しく食べてもらう工夫をしている。職員と一緒に食事をしながら、利用者の状況に合わせて見守りや介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回と決まってはいるが、利用者の要望があればその都度支援している。入浴を拒む場合は声かけする職員を変えたりしながら対応している。又失禁などがあった場合はシャワー浴を行うなどしている。入浴時は温度を確認したり、お湯を足すなどの配慮をし、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は生活歴や日々の記録から、利用者の趣味や特技、職歴などを把握している。裁縫や畑仕事、洗たく物たたみ、手芸、書道などの無理のない楽しみごとを工夫して支援している。又風船バレーなど皆で出来る楽しみごととしての気晴らしの工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調などを考慮しながら、天気の良い日は散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。又中庭が広いため日光浴などもできる。グループ内での合同行事では、弁当持参で遠出することもある。エレベーターの中が広く車椅子でも移動しやすくなっており、利用者の外出頻度も同じように出られる支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関横が急な坂になっている為、事故防止のためにオートロックにしており、入所時に利用者と家族に説明して同意を得ている。リビングは広く居室や各フロアは、対面の台所から見渡せるので施錠していない。行動に変化が見られた場合は、職員全員で見守りや申し送り、声かけなどして支援している。		

グループホーム モン・サン琴海

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練が行われており、又緊急時の対応マニュアルや連絡網を作成し、職員が共有している。3月には消防署立会いの下、自治会の方や近隣の方にも声かけを行い、地域の方の協力を得るよう働きかけを行っている。夜間想定避難訓練実施を同時に予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人内で各グループより持ち寄り作成している。栄養士がバランスをチェックし、利用者の好みや季節の物、又行事に合わせてそのつど取り入れるなどしている。食事量や水分摂取量は個人記録に記入し、水分量は1日1200～1500mlを目安に個別対応がされている。又寝る時もペットボトルをおき睡眠時も支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く明るく外の景色が見える快適な環境である。又利用者がその日の気分であらゆるようにソファや畳などあり、居心地良く過ごせるようにしている。リビングや廊下の壁などには、利用者作成の物や行事の写真が貼られ、家族から持ち込まれた花や観葉植物が置いてある。日めくりカレンダーで季節感が味わえる工夫がされるなど快適に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く明るく窓からは景色が見え、掃除も行き届いている。又入居前からの馴染みの小物や写真、位牌、行事の写真などが置かれ居心地良く過ごせるような工夫をしている。又洗面所やトイレが室内にあり、排泄などによる個人のプライバシーが守られるなど配慮されている。		

※  は、重点項目。